

労災だより

2020-Jun

No. 19

通常診療再開について

当院の診療を必要とする患者さんをご紹介しますようお願い申し上げます
 病院長 梅村 敏

地域の医療機関の皆様におかれましては、日頃より病診連携、病病連携に格別のご高配を賜り、感謝申し上げます。

当院では、本年2月のダイヤモンド・プリンセス号での新型コロナウイルス感染症の発生以来、**新型コロナウイルス感染症例、疑い症例の診療を一般診療とは完全に分離して対応してきました。**また、**一般病棟や外来においても感染対策を徹底して診療にあたってきました。**その結果、現在に至るまで**1人の院内感染者を出すことなく、診療を継続できる院内体制を維持**してまいりました。

先般の緊急事態宣言解除以降の神奈川県内の新規発生患者の動向や近隣でのクラスター発生状況等を踏まえ、感染防御に必要なマスクやガウン等の配備状況を含めた感染防御体制について院内で精査いたしました。その結果、これまで一部制限してきた**手術や内視鏡検査等を含めたすべての診療を6月17日（水）から従前の状態に戻すこと**にいたしました。

今後も、県内の新型コロナウイルス感染症の発生状況に留意しながら、皆様と一緒に地域医療を守っていきたくと考えております。**当院の診療を必要とする患者さんがいらっしゃいましたら、これまでと同様にご紹介くださいますよう、お願い申し上げます**



「ONE TEAM」

「COOPERATION」

「NEVER GIVE UP」

産婦人科部長に就任いたしました

患者さん 1 人 1 人に向き合い丁寧に EBM に基づいた医療を提供いたします
産婦人科部長 松永竜也

この度、2020 年 4 月 1 日より 中山昌樹 先生の後任として横浜労災病院 産婦人科部長に就任しました 松永 竜也 と申します。

私は、横浜の磯子で生まれ育ち、平成 10 年に日本大学を卒業した後、日本大学附属板橋病院や各関連病院にて勤務、特に横須賀市立市民病院には 7 年間勤務いたしました。その後、平成 22 年に縁あって横浜市立大学へ転局し、昨年度まで 6 年間福浦の附属病院で宮城悦子教授の指導のもと婦人科悪性腫瘍を専門に臨床試験を中心に研究するとともに手術（ロボット手術含む）や治験に携わってきました。今までの臨床経験を活かし、婦人科領域において大井副部長と共に、患者さん 1 人 1 人に向き合い丁寧に EBM に基づいた医療を提供していきたいと考えています。



具体的には今までと同様にロボット手術を含む腹腔鏡手術を悪性腫瘍にも適応を拡大するとともに、外科との協力による腸管合併切除といった拡大手術や腫瘍内科との協力による希少がんへの化学療法なども積極的に行っていきたいと考えています。一方で、がんゲノム医療や第 1.2 相試験に関しては自施設での対応は困難ですが、今まで培った人脈を用いて横浜市大附属病院のがんゲノム科や国立がんセンター中央病院や国立がんセンター東病院へのスムーズな紹介も可能です。

一方周産期に関しては、正常妊娠はもとより非常に頼もしい新生児チームとともに本年度より分娩部部長に就任した笠井絢子医師を中心に 26 週以降の早産、合併症妊娠など力を入れて管理していく所存です。

身に余る重責ですが、一意専心、横浜北部の地域医療発展と維持を目標に、先生方とより良き強い連携の構築に全力を尽くし、皆様のご期待に添うように努力する所存です。



				月	火	水	木	金
産婦人科	紹介制	婦人科	新患	★松永	瀬川 真鍋	★笠井	☆大井	小林 橋本
		婦人科	再来	★笠井 ☆大井	★茶木 橋本	小林 池内	★松永 瀬川	北島 真鍋
	産科	14週以降	産科担当医	産科担当医	産科担当医	産科担当医	産科担当医	

分娩部部長に就任いたしました

「安全安心な分娩」を目指して、横浜北部地区の周産期医療に貢献いたします
分娩部部長 笠井絢子

この度、分娩部部長に就任いたしました 笠井 絢子 と申します。横浜市立大学附属市民総合医療センターの総合周産期母子医療センターにて6年間、周産期医療に携わり、2年前に当院産婦人科に異動となり、今年4月から分娩部部長となりました。



総合周産期母子医療センターでは、主に、**合併症妊娠、産科異常、母体救命**を中心に従事してきました。この横浜労災病院も、様々な合併症妊娠、高齢妊娠の患者さんが多数いらっしゃいます。**他科と密な連携**をとりながら、「**安全・安心な分娩**」を第一に、**エビデンスに基づいた医療を提供**していきたいと思っております。



当院の特徴として、**①妊娠26週からNICUが対応可能**。新生児内科医師もNICUスタッフも熱心であり、ほぼ断ることなく、**24時間、母体搬送を受け入れて**おります。

②合併症妊娠に強い。当院はほぼ全科が揃っており、様々な合併症妊娠に対応可能です。**妊娠糖尿病**については、内分泌・代謝内科が全例管理しており、安心して分娩に臨むことができます。また、**精神疾患合併妊娠**についても、精神科医師が1人在籍しており、精神科入院が必要でない妊婦さんに限られますが、妊娠中に精神科医師の診察を受け、急変時にもスムーズに対応できるように連携しております。麻酔科も毎日当直しており、**迅速に帝王切開術ができる体制**を整えております。特に**常位胎盤早期剥離**のような、超緊急帝王切開術に対しては、手術室とシミュレーションを年2回施行しており、帝切決定から20分以内で児娩出可能です。**③産後のケアも手厚い**。産後2週間健診は集団ではなく、マンツーマンで助産師が診察にあたり、きめ細やかな相談が可能であり、退院後も安心して育児を行うことが可能です。

当院は、**分娩制限は設けておりません**ので、緊急症例でも**前置胎盤**や**胎児発育不全**、妊娠糖尿病などの外来紹介症例をお受けしておりますので、近隣の先生方におかれましては、何か不安がありましたら、いつでもご相談ください。

最近、妊娠初診に対して、**web予約**を開始いたしました。病院のホームページから外来のweb予約ができますので、こちらもご活用ください。

お母さんと赤ちゃんが笑顔で退院できるよう、**横浜北部地区の周産期医療に貢献**したいと思っておりますので、ご紹介いただければと存じます。よろしくお願いいたします。



皮膚科部長に就任いたしました

入院治療や手術、検査に特化した皮膚科を目指しています

皮膚科部長 佐藤勘治

本年度から皮膚科部長を引き継がせていただいております 佐藤 勘治 と申します。1997年に獨協医科大学を卒業し、横浜労災病院で研修させていただきました。そのまま当院皮膚科医として、初代向井部長のもとでアトピー性皮膚炎を中心に、途中3年間は北里大学病院で、市中病院では経験することの少ない悪性腫瘍や膠原病も学んできました。その後も金子部長、齊藤部長のもとで、当院の皮膚科医として長年働かせてもらっています。いつまでも下っ端との認識で目の前の仕事を行ってききましたが、気が付けば自分より年上の医局員がほとんどいなくなり、この度は覚悟を決めさせていただきました。



パッチテストやスクラッチテスト、皮膚生検などの検査、治療は小手術、紫外線治療、アトピー性皮膚炎の治療薬であるデュピクセント®、難治性蕁麻疹の治療薬であるゾレア®、乾癬などの治療に用いる生物学的製剤も使用できます。また、自費診療にはなりますが、Qスイッチルビーレーザー（茶または青あざの治療）、炭酸ガスレーザー（腫瘍を削る）、5%ハイドロキノン軟膏やレチノイン酸含有軟膏でのしみの治療も行っています。赤あざ（血管腫）や神経ブロック、ポツリヌス治療、減感作治療はできません。皮膚疾患はどこの診療科であっても遭遇することがあり、アトピー性皮膚炎や帯状疱疹、皮膚がんなどがテレビ取り上げられることもあり、研修医の皮膚疾患に対する意識は高くなっています。当科は皮膚科学会で認定された教育研修施設であり、毎月のように研修医が学びに来てくれるので、教育にも力を入れていきます。

昨年度までは5人体制で働いておりましたが、今年度は男4人です。私以外は若いです。特に得意分野は持ち合わせていませんが、探求心と体力、今はできませんが、食べたり飲んだりとは並みはずれており、なにより元気です。難治症例であっても、スタッフ全員で何とかしていきたいと思っております。病院の立場からは、入院治療や手術、検査に特化した皮膚科を目指していますが、少しでも患者さんやご家族、紹介いただく先生方が満足できるような医療を目指して頑張らせていただきます。例年、病診連携の会として、横浜北部皮膚科臨床懇話会を年2回開催しております。これからも横浜労災病院皮膚科をよろしく願います。



～当院へご紹介される場合、事前にご予約の連絡をお願いいたします～

登録医療専用電話 ☎ 045-474-8362（直通）（受付時間 8:15～19:00）

横浜労災病院

横浜市港北区小机町 3211 TEL 045-474-8111